

—ONWARD—

2025年2月期(2024年度)第3四半期
決算説明資料



2025年1月9日

株式会社 オンワードホールディングス

財務・経理・IR担当の吉田でございます。

お忙しい中、説明会にご参加頂きまして、ありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

オンワードグループのミッションステートメント

ヒトと地球に潤いと彩りを

「社員の多様な個性をいかしたお客さま中心の経営」により
地球と共生する「潤いと彩り」のある生活づくりに貢献する

『生活文化創造企業』として前に進み続ける



01	連結実績および連結業績予想ハイライト	P4
02	2024年度3Q累計 連結実績	P8
03	2024年度通期 連結業績予想	P15
04	財務状況	P18
05	TOPICS	P21
06	補足資料	P25



Copyright © ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

4

01

連結実績および連結業績予想
ハイライト

2024年度3Q累計 連結実績ハイライト

—ONWARD—

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
1,499 億円	86 億円	85 億円	58 億円
〔前年同期比 +6.1% +86億円 〕	〔前年同期比 △11.8% △11億円 〕	〔前年同期比 △6.6% △6億円 〕	〔前年同期比 +0.6% +0.3億円 〕

- 売上高は、前年同期比で6.1%増収の1,499億円となった。前年以上に残暑が長引いたこと等から、秋冬物衣料のプロパー販売が想定を下回ったが、OMOサービス(クリック&トライ)の利用件数の拡大等により、増収を確保した。
- ブランド別では、UNFILOが87.2%、KASHIYAMAが38.6%、チャコット・コスメティクスが29.1%の増収と、大幅に伸長した。基幹ブランドも、23区が4.0%、自由区が5.3%、ベットパラダイスが7.9%の増収と、堅調に推移した。
- 冬物衣料のプロパー販売機会が4Qにずれ込んだことや、コロナ禍からの回復期に増加した旧年品在庫高の調整を進めたこと等により、粗利益率は1.2%低下した。一方で、賃上げ等による販管費の増加を、ブランド複合店(オンワード・クローゼットセレクト)の出店拡大による店舗運営効率の向上等で吸収したことにより、販管費率は前年同期の水準を維持した。この結果、営業利益は11.8%減益の86億円、経常利益は6.6%減益の85億円となった。
- 10月から連結対象になったウィゴーについては、カジュアル衣料や雑貨の販売が好調に推移したため、3Q期間(10～11月の2か月間)の売上高は54億円、営業利益は2億円となった。
- 繰延税金資産の計上等により、当期純利益は0.6%増益の58億円となった。

まず5ページ、2024年度3Q累計連結実績ハイライトになります。売上高は1,499億円、前年同期比プラス6.1%、86億円の増収、営業利益は86億円、前年同期比マイナス11.8%、11億円の減益、経常利益は85億円、前年同期比マイナス6.6%、6億円の減益、当期純利益は58億円、前年同期比プラス0.6%、0.3億円の増益となりました。主に9月、10月に渡って残暑が長引いたことにより、3Qから4Qへ需要が移行し、秋冬物衣料のプロパー売上は計画未達となりましたが、OMOサービスの利用が継続拡大できたことなどにより増収を確保できました。ブランド別では、のちほど触れさせていただきますが、上期から継続して、『UNFILO』、『KASHIYAMA』、『チャコット・コスメティクス』が大幅伸長、基幹ブランドについても堅調な推移となりました。減益の大きな要因としては、冬物衣料のプロパー販売機会が4Qにずれ込んだこと、また、こちらも上期から同様の傾向になりますが、コロナ禍からの回復期に積みました残在庫の消化を推進したことのミックスで、粗利率が1.2%低下したことによるものです。一方で賃上げ等による販管費の増加を、ブランド複合店である「オンワード・クローゼットセレクト」の拡大による店舗運営効率の向上でオフセットでき、販管費率は前年同期の水準を維持することができました。当期利益については、繰延税金資産の計上などにより微増益となりました。なお、10月から連結対象となったウィゴーにつきましては、カジュアル衣料や雑貨が好調で、10月、11月の2か月で、売上54億円、営業利益2億円となりました。同社の海外の取り組みを22ページにまとめておりますが、10月に上海で「痛バッグ」のポップアップを開催したところ、6日間で18,000人の来場予約があり、約1億円を売り上げ、大盛況でした。また、12月にはマレーシアの「ららぽーと」に出店しておりますが、こちらも好調な出だしとなっております。中国・東南アジアでも、若者の人気非常高的ブランドですので、これを足掛けとして、海外展開の検討を進めてまいります。

2024年度通期 連結業績予想ハイライト

—ONWARD—

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2,100 億円	125 億円	122 億円	85 億円
〔前年同期比 +10.7% +204億円〕	〔前年同期比 +11.0% +12億円〕	〔前年同期比 +20.5% +21億円〕	〔前年同期比 +28.6% +19億円〕

- 4Q期間において冬物衣料のプロパー販売施策を強化すること等により、売上高は前年同期比10.7%増収の2,100億円、営業利益は11.0%増益の125億円、経常利益は20.5%増益の122億円の直近予想を据え置く。
- 当期純利益については、繰延税金資産の計上等により、28.6%増益の85億円を予想する（直近予想から2.5億円の上方修正）。
- 以上の結果、1株当たり配当金については、26円を予想する（期初予想の24円から2円の上方修正）。

6 ページ、通期の連結業績予想ハイライトです。こちらについては、前述のとおり、冬物衣料をプロモーションを絡めてしっかりとプロパーで売ること、当初の予想である売上高2,100億円、営業利益125億円、経常利益122億円を確保し、当期純利益のみ85億円に上方修正し、配当金を増配する予定でございます。

■ 配当方針

株主の皆さまへの利益還元を経営の最重要課題の一つと位置づけ、配当性向の目安を40%以上とし、安定的で業績に連動した適正な利益を配分。

2024年度の期末配当(2025年5月予定)は、直近予想から2円増配の、1株当たり26円を予想。(2023年度の20円から6円の増配)

	2024年度 今回予想	2024年度 直近予想	2023年度 実績
1株当たり配当金	26円	24円	20円
配当金総額(百万円)	3,529	3,257	2,714
当期純利益(百万円)	8,500	8,250	6,611
配当性向	41.5%	39.5%	41.1%

■ 中間配当制度の導入

株主の皆さまへの利益還元の機会を充実させるために、定時株主総会の決議を経た上で、2025年度より、中間配当制度を導入する予定。

自由区



Copyright © ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

02

2024年度3Q累計 連結実績

2024年度3Q累計 連結実績



- 売上高は前年同期比で6.1%増収の1,499億円、営業利益は11.8%減益の86億円、経常利益は6.6%減益の85億円となった。
- 繰延税金資産の計上等により、当期純利益は0.6%増益の58億円となった。

		3Q累計			
(百万円)		2024年度	2023年度	増減額	増減率
1	売上高	149,940	141,383	+8,557	+6.1%
2	売上総利益	83,433	80,274	+3,159	+3.9%
	(対売上高比率)	(55.6%)	(56.8%)		(Δ 1.2%)
3	販管費	74,873	70,574	+4,299	+6.1%
	(対売上高比率)	(49.9%)	(49.9%)		(+0.0%)
4	営業利益	8,560	9,700	△ 1,140	△ 11.8%
	(対売上高比率)	(5.7%)	(6.9%)		(Δ 1.2%)
5	経常利益	8,456	9,055	△ 599	△ 6.6%
	(対売上高比率)	(5.6%)	(6.4%)		(Δ 0.8%)
6	当期純利益	5,780	5,746	+34	+0.6%
	(対売上高比率)	(3.9%)	(4.1%)		(Δ 0.2%)
7	EBITDA※	12,328	13,282	△ 954	△ 7.2%
	(対売上高比率)	(8.2%)	(9.4%)		(Δ 1.2%)

※ EBITDA(営業利益+減価償却費およびのれん償却費)

2024年度3Q累計

事業会社別実績

ONWARD

■

10月から新たに連結対象となった株式会社ウィゴーについては、カジュアル衣料や雑貨の販売が好調に推移したため、3Q期間(10～11月)売上高が54億円、営業利益が2億円となった。

	(百万円)	3Q累計			
		2024年度	2023年度	増減額	増減率
1	オンワード樫山+HD	売上高 84,687	81,484	+3,203	+3.9%
		営業利益 5,132	6,781	△ 1,649	△ 24.3%
2	オンワード	売上高 13,112	12,673	+439	+3.5%
	コーポレートデザイン	営業利益 1,129	1,177	△ 48	△ 4.1%
3	アイランド	売上高 4,232	4,388	△ 156	△ 3.6%
		営業利益 96	5	+91	+1820.0%
4	チャコット	売上高 7,896	7,447	+449	+6.0%
		営業利益 899	784	+115	+14.7%
5	クリエイティブヨーコ	売上高 4,876	4,633	+243	+5.2%
		営業利益 555	456	+99	+21.7%
6	大和	売上高 15,106	15,787	△ 681	△ 4.3%
		営業利益 1,019	1,467	△ 448	△ 30.5%
7	ウィゴー	売上高 5,419	-	-	-
		営業利益 222	-	-	-
8	国内グループ会社小計	売上高 53,665	52,593	+1,072	+2.0%
	(オンワード樫山+HD、ウィゴー除く)	営業利益 4,254	4,231	+23	+0.5%
9	ヨーロッパ計	売上高 9,225	8,270	+955	+11.5%
		営業利益 13	△ 323	+336	↗
10	アメリカ計	売上高 1,468	1,366	+102	+7.5%
		営業利益 △ 322	△ 366	+44	↗
11	アジア計	売上高 4,715	4,994	△ 279	△ 5.6%
		営業利益 25	18	+7	+38.9%
12	海外グループ会社小計	売上高 15,408	14,630	+778	+5.3%
		営業利益 △ 284	△ 671	+387	↗
13	連結合計	売上高 149,940	141,383	+8,557	+6.1%
		営業利益 8,560	9,700	△ 1,140	△ 11.8%

※グループの内訳は単純合算

連結合計には相殺消去含む

Copyright © ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

10

※グループの内訳は単純合算 連結合計には相殺消去含む

続きまして、10ページ、3Q累計の事業会社別実績です。オンワード樫山 + ホールディングスは、上期から同様の傾向となりますが、「オンワード・クローゼットセレクト」の伸長に連動し、リアル・ECともに売上を伸ばし、対前年同期で約32億円増収したものの、コロナ禍後に積み増した在庫圧縮によりバーゲン構成比が高くなり、粗利益率が計画よりも若干下回ってしまったため、営業利益は対前年同期で減益となりました。こちらが連結全体への影響の大部分になります。アイランドは『グレースコンチネンタル』、レザーグッズの『カービングドライブス』などを取り扱っているレディスアパレル企業です。上期から引き続き、採算性を重視した店舗のスクラップアンドビルドを進めた結果、減収とはなりましたが、店舗利益の改善、モノづくりでの原価改善などが進み、第3四半期累計でも増益を継続しております。とりわけ好調なのがチャコット、クリエイティブヨーコの2社で2桁の増益となりました。『チャコット・コスメティクス』のヒット商品が生まれたこと、クリエイティブヨーコのインバウンド向けペット売上が好調であったことや、『しろたん』等のキャラクターグッズが好調で、2社合わせて約2億円の増益につながっております。大和については、数年来好調で業容拡大を続けてきましたが、当上期においては、売上構造改革、フォーマルギフト市場などで鈍化した販路切り替えを継続して進めており、ふるさと納税の返礼品事業などの成果が出始めております。第3四半期累計においては、このような経過のため、対前年同期で減収減益となっておりますが、2023年度上期に収益に関する会計基準変更があったことにより売上・営業利益で約2億円のマイナス影響がありました。そこを差し引きますと、安定した利益が確保できており、来期に向けて構造改革を進めてまいります。オンワード樫山およびウィゴーを除く国内グループ会社小計では、対前年同期で売上高11億円、2%の増収となり、営業利益は、ほぼ横ばいの結果となりました。海外は、ジョゼフを中心とするヨーロッパで、決算期の変更等があり、それらの影響が5億円程度ありますが、アフォーダブルブランドの小売がマーケットでも好調で、対前年同期で増収増益となりました。アジアは、中国国内において需要の減退などがあり、減収となりましたが、海外グループ会社小計としては、約8億円の増収、営業利益は赤字ながら4億円の改善となっております。

2024年度3Q累計 販路別売上高



- リアル販路(百貨店+SC他)については、8.9%の増収となった。
- ECについては6.5%の増収となった。EC化率は28.8%、自社EC比率は85.4%と、引き続き高い水準を維持した。

	(百万円)	①オンワード樺山				②国内EC対象事業会社8社 [※]				合計 (①+②)			
		2024年度	2023年度	増減額	増減率	2024年度	2023年度	増減額	増減率	2024年度	2023年度	増減額	増減率
1	百貨店	31,392	31,874	△482	△1.5%	8,071	7,401	+670	+9.1%	39,463	39,275	+188	+0.5%
	(構成比)	(37.1%)	(39.1%)		(△ 2.0%)	(18.5%)	(19.9%)		(△ 1.4%)	(30.7%)	(33.1%)		(△ 2.4%)
2	SC他	29,545	27,127	+2,418	+8.9%	22,392	17,521	+4,871	+27.8%	51,937	44,648	+7,289	+16.3%
	(構成比)	(34.9%)	(33.3%)		(+1.6%)	(51.2%)	(47.2%)		(+4.1%)	(40.5%)	(37.6%)		(+2.8%)
3	リアル販路計	60,937	59,001	+1,936	+3.3%	30,463	24,922	+5,541	+22.2%	91,400	83,923	+7,477	+8.9%
	(構成比)	(72.0%)	(72.4%)		(△ 0.5%)	(69.7%)	(67.1%)		(+2.6%)	(71.2%)	(70.7%)		(+0.5%)
4	自社EC	21,237	20,515	+722	+3.5%	10,359	10,310	+49	+0.5%	31,596	30,825	+771	+2.5%
	(構成比)	(25.1%)	(25.2%)		(△ 0.1%)	(23.7%)	(27.8%)		(△ 4.0%)	(24.6%)	(26.0%)		(△ 1.4%)
5	他社ECモール	2,513	1,968	+545	+27.7%	2,871	1,919	+952	+49.6%	5,384	3,887	+1,497	+38.5%
	(構成比)	(3.0%)	(2.4%)		(+0.6%)	(6.6%)	(5.2%)		(+1.4%)	(4.2%)	(3.3%)		(+0.9%)
6	EC計	23,750	22,483	+1,267	+5.6%	13,230	12,229	+1,001	+8.2%	36,980	34,712	+2,268	+6.5%
	(構成比)	(28.0%)	(27.6%)		(+0.5%)	(30.3%)	(32.9%)		(△ 2.6%)	(28.8%)	(29.3%)		(△ 0.5%)
7	自社EC比率	89.4%	91.2%		△1.8%	78.3%	84.3%		△5.9%	85.4%	88.8%		△3.4%
8	売上高計	84,687	81,484	+3,203	+3.9%	43,693	37,151	+6,542	+17.6%	128,380	118,635	+9,745	+8.2%

※Eコマースを運営している以下の国内事業会社8社
アイランド、ティアクラッセ、オンワードパーソナルスタイル、チャコット、クリエイティブヨーコ、大和、KOKOBUY、ウィゴー

11ページ、販路別売上高についてです。黄色のボックスで囲っているところを御覧ください。当第3四半期累計よりウィゴーの売上が含まれている実績となります。リアル販路は8.9%、EC6.5%増収、自社EC比率は85.4%と、ウィゴーの影響もあり若干減少しましたが、依然として高水準を維持出来ており、自社EC化率は85.4%と高水準を維持出来ており、全体のEC化率も約30%をキープしています。

ブランド事業

—ONWARD—

UNFILO

【 オンワード樫山 】

中軽衣料を中心とした機能美開発商品により、客数増加。



3Q累計売上高
(前年同期比) + 87.2%

23区

【 オンワード樫山 】

気候変動に対応した鮮度ある軽量アウターが高稼働。



3Q累計売上高
(前年同期比) + 4.0%

KASHIYAMA

【 オンワードパーソナルスタイル 】

プロモーション施策により、客数・客単価ともに増加。



3Q累計売上高
(前年同期比) + 38.6%

自由区

【 オンワード樫山 】

中軽衣料の拡充により、プロパー売上が好調に推移。



3Q累計売上高
(前年同期比) + 5.3%

チャコット・コスメティクス

【 チャコット 】

新規開発商品のプレストパウダーと、秋冬の「モイストシリーズ」が高稼働。



3Q累計売上高
(前年同期比) + 29.1%

ペットパラダイス

【 クリエイティブヨーコ 】

カート、キャリーバッグなどの雑貨が好調に推移。



3Q累計売上高
(前年同期比) + 7.9%

12ページブランド事業については、左サイドが新興ブランドで、右サイドが基幹ブランドです。こちら上期からほぼ同様の傾向ですが、EC専業からスタートした『UNFILO』はSCの拡大とともに、前年同期比87%増収と売上拡大を継続することが出来ており、100億円規模に成長してきております。また、カスタマイズスーツの『KASHIYAMA』は継続したプロモーション投資の効果により、約40%の増収を上期から継続できています。『チャコット・コスメティクス』においても、保湿力を高める秋冬向けの「モイストシリーズ」も好調で、約30%の増収、第4四半期以降についても新商品のリリースを継続し、コスメ事業としての業容拡大を推進してまいります。

- 「クリック＆トライ」サービスの導入店舗数は、前年同期末から3Q末で25店舗増加して413店舗となり、導入率は64%に上昇した。
- 3Q累計の予約点数は、前年同期比で17%増加の21万5千点となった。
- 導入店舗（既存）の売上高増減率（前年同期比）は、未導入店舗を19%ポイント上回った。

■ 導入店舗数・予約点数の推移

	2024年度 3Q末(累計)	2023年度 3Q(累計)	増減
店舗数	413	388	+25
導入率	64%	56%	+8%
予約点数(千点)	215	184	+31

■ 導入店舗・未導入店舗の売上高（前年同期比）

	2024年度 3Q累計	2023年度 3Q累計
導入店舗	113%	117%
未導入店舗	94%	92%
差	+19%	+25%

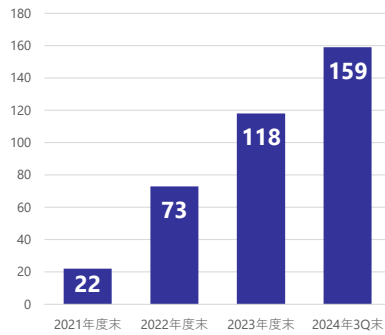
13ページ、継続してご説明しているオンワード樫山の店舗機能である「クリック＆トライ」についての状況です。対前年同期で25店舗増加し、累計413店舗、予約点数は約20%増加、導入店舗の方が、未導入店舗よりも対前年同期比が19%高く推移しております。

「オンワード・クローゼットセレクト（OCS）」

—ONWARD—

- 2024年3Q末では、2023年度末から41店舗増加し、全国159店舗を展開する。
- 3Q累計売上高の前年同期比は、OCS以外の店舗を23%ポイント上回った。

■ OCS店舗数の推移



■ OCS売上高（前年同期比）

	2024年3Q累計
オンワード・クローゼットセレクト(OCS)	120%
OCS除く店舗	97%
差	+23%



2024年10月2日オープンの大丸東京店OCS。
オープンから2か月間の売上は、1.1億円超。

14ページの、オンワード樫山の複合店舗である「オンワード・クローゼットセレクト」の状況についてです。既存店舗からの切り替えも含め、前期末から41店舗増加し、合計で159店舗まで拡大することが出来ました。引き続き、重要な流通営業戦略として拡大を推進していきます。

icb



03

2024年度通期 連結業績予想

2024年度通期 連結業績予想



- 売上高は前年同期比10.7%増収の2,100億円、営業利益は11.0%増益の125億円、経常利益は20.5%増益の122億円の直近予想を据え置く。
- 当期利益は、繰延税金資産の計上等により、直近予想から2.5億円上振れとなる85億円に上方修正する。

(百万円)	通期予想			対2023年度		対公表値		上期実績		
	2024年度	2023年度	公表値	増減額	増減率	増減額	増減率	2024年度	2023年度	増減率
1 売上高	210,000	189,629	210,000	+20,371	+10.7%	+0	+0.0%	95,102	90,411	+5.2%
2 売上総利益	116,250	105,782	116,250	+10,468	+9.9%	+0	+0.0%	52,709	51,152	+3.0%
(対売上高比率)	(55.4%)	(55.8%)	(55.4%)		(△ 0.4%)		0.0%	(55.4%)	(56.6%)	(△ 1.2%)
3 販管費	103,750	94,522	103,750	+9,228	+9.8%	+0	+0.0%	47,454	46,130	+2.9%
(対売上高比率)	(49.4%)	(49.8%)	(49.4%)		(△ 0.4%)		(+0.0%)	(49.9%)	(51.0%)	(△ 1.1%)
4 営業利益	12,500	11,260	12,500	+1,240	+11.0%	+0	+0.0%	5,255	5,022	+4.6%
(対売上高比率)	(6.0%)	(5.9%)	(6.0%)		(+0.1%)		(+0.0%)	(5.5%)	(5.6%)	(△ 0.1%)
5 経常利益	12,200	10,126	12,200	+2,074	+20.5%	+0	+0.0%	5,213	4,412	+18.2%
(対売上高比率)	(5.8%)	(5.3%)	(5.8%)		(+0.5%)		(+0.0%)	(5.5%)	(4.9%)	(+0.6%)
6 当期純利益	8,500	6,611	8,250	+1,889	+28.6%	+250	+3.0%	4,108	2,862	+43.5%
(対売上高比率)	(4.0%)	(3.5%)	(3.9%)		(+0.5%)		(+0.1%)	(4.3%)	(3.2%)	(+1.1%)
7 EBITDA※	17,700	16,052	17,700	+1,648	+10.3%	+0	+0.0%	7,690	7,390	+4.1%
(対売上高比率)	(8.4%)	(8.5%)	(8.4%)		(△ 0.1%)		0	(8.1%)	(8.2%)	(△ 0.1%)

※ EBITDA(営業利益+減価償却費およびのれん償却費)

16ページ、通期連結業績予想です。上期と同様の説明になりますが、10月1日より連結されたウィゴー分の影響を売上高100億円、営業利益以下0円と予想し、期初予想に上乗せした結果、売上高は、2,100億円で、対2023年度で10.7%、約204億の増収、営業利益以下は当初通りで125億円、11%、約12億円の増益を予想します。当期純利益については、期初予想から上方修正し85億円、28.6%、約19億円の増益といたしました。それに伴い、期末配当の上方修正を2円行っております。EBITDAは変更なく、177億円、10.3%、約16億円の増加となる計画です。

2024年度通期 事業会社別業績予想						ONWARD		
		(百万円)	通期				上期実績	
			2024年度	2023年度	増減額	増減率	2024年度	2023年度
1	オンワード樫山+HD	売上高	114,966	109,491	+5,475	+5.0%	54,722	51,566
		営業利益	8,741	8,189	+552	+6.7%	2,938	3,210
2	オンワード	売上高	18,346	17,188	+1,158	+6.7%	8,952	8,209
		営業利益	1,593	1,485	+108	+7.3%	990	825
3	アイランド	売上高	6,002	5,716	+286	+5.0%	2,772	2,844
		営業利益	99	△ 83	+182	↗	74	△ 23
4	チャコット	売上高	10,500	9,613	+887	+9.2%	5,358	5,059
		営業利益	719	649	+70	+10.8%	645	565
5	クリエイティブヨーコ	売上高	6,902	6,486	+416	+6.4%	3,140	2,969
		営業利益	706	660	+46	+7.0%	303	235
6	大和	売上高	22,583	21,037	+1,546	+7.3%	10,108	10,592
		営業利益	1,756	1,728	+28	+1.6%	795	999
7	ウィゴー	売上高	10,000	-	-	-	-	-
		営業利益	0	-	-	-	-	-
8	国内グループ会社小計	売上高	75,366	70,567	+4,799	+6.8%	35,959	34,745
	(オンワード樫山+HD、ウィゴー除く)	営業利益	5,669	4,970	+699	+14.1%	3,159	2,780
9	ヨーロッパ計	売上高	12,499	11,355	+1,144	+10.1%	6,116	4,832
		営業利益	366	156	+210	+134.6%	△ 259	△ 449
10	アメリカ計	売上高	2,330	1,890	+440	+23.3%	1,153	936
		営業利益	△ 145	△ 414	+269	↗	△ 175	△ 231
11	アジア計	売上高	7,137	6,682	+455	+6.8%	3,613	3,234
		営業利益	100	47	+53	+112.8%	120	40
12	海外グループ会社小計	売上高	21,966	19,927	+2,039	+10.2%	10,882	9,002
		営業利益	321	△ 211	+532	↗	△ 314	△ 640
13	連結合計	売上高	210,000	189,629	+20,371	+10.7%	95,102	90,411
		営業利益	12,500	11,260	+1,240	+11.0%	5,255	5,022
※ウィゴー10月より連結。 ※グループの内訳は単純合算 連結合計には相殺消去含む。 ※オンワードコーポレートデザインの2023年度通期および上期実績には、旧オンワード商事に加え、旧オンワードクリエイティブセンターの数値を含む。								

17ページ、事業会社別業績予想についても上期同様、ウィゴー社が加わっていること以外、個社別の通期予想は変更しておりません。オンワード樫山で対2023年度、売上高約55億円、5%の増収で、営業利益 5.5億円、6.7%の増益、オンワード樫山およびウィゴーを除く国内グループ会社小計は売上高約48億円、6.8%の増収、営業利益約 7 億円、14%の増益予想を維持します。海外グループ会社小計では、売上高約20億円、10.2%の増収、営業利益約 5 億円の増益により、通期の海外事業の黒字化を目指します。



04

財務状況

2024年度3Q累計 EBITDA/純資産/自己資本比率/流動比率 —ONWARD—

- EBITDAは、前年同期比7.2%減少の123億円。
- 純資産は、非支配株主持分の減少により前期末より3.8%減少(△32億円)の818億円。
- 自己資本比率は、前期末より4.7%減少の41.9%。
- 流動比率は、前期末より2.9%減少の114.8%。

EBITDA

(百万円)

2024年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減	増減率
12,328	13,282	△ 954	△ 7.2%

自己資本比率

2024年度 3Q末	2023年度 期末	増減
41.9%	46.6%	△ 4.7%

純資産

(百万円)

2024年度 3Q末	2023年度 期末	増減	増減率
81,793	84,995	△ 3,202	△ 3.8%

流動比率

2024年度 3Q末	2023年度 期末	増減
114.8%	117.7%	△ 2.9%

19ページ、20ページは、財務状況の各指標になります。EBITDAは、対前期比7.2%減少の123億円、純資産は818億円で期首から32億円、3.8%減少いたしました。これは主に過年度においてグループ会社が資金調達のために発行した優先株式の償還を行ったことにより減少したものです。自己資本比率は41.9%、4.7%減少いたしました。これは、主にウィゴー社の取り込みによる総資産の増加によるものです。同様の影響で、流動比率も約3%悪化しておりますが、前年同期比較で、営業キャッシュフローは約67億円改善しており、利益の積み上げと合わせて、経過とともに自己資本比率および流動比率も改善してまいります。

20ページ以降は資料をご確認ください。

以上、私からのご説明を終えさせていただきます。

2024年度3Q累計 キャッシュ・フロー/設備投資/減価償却費 —ONWARD—

■ キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前利益、および棚卸資産の増加などにより71億円の収入。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得、子会社株式の取得などにより91億円の支出。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加および配当金の支払い等の結果、66億円の収入。

■ 設備投資

- 設備投資額は、前年同期から9億円増加の45億円。
- DX関連やOMO関連など投資を厳選し、効率的に実施。

(百万円)

2024年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減	増減率
4,453	3,515	+938	+26.7%

■ 減価償却費

- 減価償却費は、前年同期から2億円増加の31億円。

(百万円)

2024年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減	増減率
3,111	2,959	+152	+5.1%



Copyright © ONYARD HOLDINGS CO., LTD.

05

TOPICS

ウィゴーがアジア展開を積極化

—ONWARD—

～上海ポップアップイベントの開催、マレーシアへの初出店～

(株式会社ウィゴー)

- 中国展開の第一歩として、昨年10月に、上海のショッピングモール「上海静安大悦城」で、予約制ポップアップ販売イベント(痛バッグ限定)を初開催した。6日間の会期中の予約来場者数は18,000人を超える盛況となり、売上高は約1億円となった。
- ASEAN展開の第一歩として、昨年12月に、マレーシア・クアラルンプールの「ららぽーとBUKIT BINTANG CITY CENTRE (BBCC)」に初出店した。開店以降の売上高は、計画を上回るペースで推移している。



「上海静安大悦城」での
ポップアップの様子



アニメやアイドルなどの缶バッジ等
を付けて推しへの愛を表現する
人気推し活グッズ「痛バッグ」



「ららぽーとBBCC(マレーシア)」の
ウィゴー店舗外観

『23区』「遊勤コーデ」プロモーションを実施

—ONWARD—

～角田夏実選手、古賀紗理那さん、畠山愛理さん、高木菜那さん
同時ランウェイデビュー～
(株式会社オンワード樫山)

- 昨年11月に、アスリート4名(柔道家・角田夏実選手、元バレーボール女子日本代表・古賀紗理那さん、元新体操日本代表・畠山愛理さん、元スピードスケート選手・高木菜那さん)を起用した『23区』のランウェイショーを、オンラインコンテンツと連動させながら開催した。
- 冬の通勤ファッションに着映えと遊び心をもたらす「遊勤コーデ」の提案に反響があり、『23区』のオンライン売上に加えて、リアル店舗の売上拡大にも貢献するプロモーションとなった。



シエリールクチュール
プレステージライン『chérircouture』をローンチ
(株式会社クリエイティブヨココ)

- 昨年10月に、高品質、高感度なペット関連用品への需要の高まりに対応し、厳選された素材と洗練されたデザインにこだわった新ライン『chérircouture』(シエリールクチュール)をローンチした。商品単価は既存の『ペットパラダイス』の約2倍の水準となる。
- 「愛しい大切な子に特別な一着を」というコンセプトに支持が集まり、都心部のリアル店舗を中心に、新たな顧客層の獲得につながっている。



シエリールクチュール
『chérircouture』公式サイト <https://00m.in/wZcHJ>





2024年度3Q累計 連結販管費					ONWARD	
					ウィゴー社除く	
	(百万円)	2024年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減率	2024年度 3Q累計	増減率
1	人件費	28,115	26,633	+5.6%	27,239	+2.3%
2	賃借料	20,536	19,070	+7.7%	19,521	+2.4%
3	運賃運搬費	4,889	4,826	+1.3%	4,741	△ 1.8%
4	広告宣伝費	5,401	4,817	+12.1%	5,244	+8.9%
5	減価償却費	2,510	2,367	+6.0%	2,457	+3.8%
6	その他	13,422	12,861	+4.4%	13,017	+1.2%
7	販管費計	74,873	70,574	+6.1%	72,219	+2.3%

【 3Q累計増減要因 】

■

人件費

…

主にオンワード樫山での給与水準引き上げ、人員補強に伴う人件費の増加

■

賃借料

…

売上高の増加に連動し増加

■

運賃運搬費

…

店舗の運用効率化、不採算事業の撤退に伴う減少

■

広告宣伝費

…

タイアップ広告、プロモーション施策により増加

■

減価償却費

…

店舗出店・DX投資に伴い減価償却費が増加

2024年度3Q累計 当期純利益影響項目

ONWARD

(百万円)		2024年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減率
1	営業利益	8,560	9,700	△ 11.8%
2	営業外収益	479	388	+23.5%
3	受取利息・配当金	233	169	+37.9%
4	持分法による投資利益	149	42	+254.8%
5	その他	96	176	△ 45.5%
6	営業外費用	583	1,033	△ 43.6%
7	支払利息	274	392	△ 30.1%
8	為替差損	70	380	△ 81.6%
9	その他	238	259	△ 8.1%
10	営業外損益計	△104	△645	-
11	経常利益	8,456	9,055	△ 6.6%
12	特別利益	1,771	415	+326.7%
13	固定資産売却益	906	52	+1,642.3%
14	投資有価証券売却益	865	362	+139.0%
15	特別損失	2,961	598	+395.2%
16	減損損失	363	362	+0.3%
17	災害による損失	-	187	-
18	関係会社整理損	1,454	-	-
19	段階取得に係る差損	1,088	-	-
20	その他	55	48	+14.6%
21	特別損益	△1,190	△183	-
22	税前列益	7,266	8,872	△ 18.1%
23	法人税等	1,423	2,920	△ 51.3%
24	少数株主損益	61	205	△ 70.2%
25	当期純利益	5,780	5,746	+0.6%

【 当期純利益影響項目 】

- 受取利息・受取配当金等による営業外収益5億円。
- 支払利息等による営業外費用6億円。
- 固定資産売却益、投資有価証券売却益による特別利益18億円。
- 関係会社整理損、減損損失等による特別損失30億円。今期ウィゴ一株式の追加取得による評価の洗替を実施。発生した評価損11億円を「段階取得に係る差損」として計上。
- 法人税等は、業績向上により将来課税所得の増加が見込まれ、繰延税金資産の計上に伴い、税負担率が低下。
- 以上の結果、当期純利益は58億円となった。

2024年度3Q累計 連結貸借対照表

	(億円)	2024年度3Q末	2023年度末	前期末比±
1	資産合計	1,951	1,713	+238
2	流動資産	912	734	+178
3	現金及び預金	166	141	+25
4	売掛金	217	159	+58
5	棚卸資産	482	389	+93
6	固定資産	1,039	979	+60
7	有形固定資産	515	504	+11
8	無形固定資産	129	88	+41
9	投資その他の資産	394	386	+8
10	負債合計	1,133	863	+270
11	買掛金	320	226	+94
12	借入金	513	376	+137
13	その他	300	261	+39
14	純資産合計	817	849	△ 32
15	自己資本比率	41.9%	46.6%	△ 4.7%
16	流動比率	114.8%	117.7%	△ 2.9%

■ 棚卸資産

ウィゴー連結加入、仕入時期の季節的要因による増加。

■ 無形固定資産

ウィゴー連結加入に伴うのれん、DX投資に伴うソフトウェアの増加。

■ 借入金

新規借入による増加。

■ 純資産

優先株式取得に伴う少数株主持分の減少。

■ 自己資本比率

前年度末より4.7%減少の41.9%。

■ 流動比率

前年度より2.9%低下の114.8%。安全性の目安である100%以上を維持。

2024年度 グループ別3Q累計実績・通期予想



		3Q累計実績				通期予想				
		2024年度	2023年度	増減額	増減率	2024年度	2023年度	増減額	増減率	
(百万円)										
オンワード +HD 堀山	1	売上高	84,687	81,484	+3,203	+3.9%	114,966	109,491	+5,475	+5.0%
	2	売上総利益 (売上比)	49,467 (58.4%)	49,850 (61.2%)	△ 383 (△ 2.8%)	△ 0.8%	68,859 (59.9%)	65,428 (59.8%)	+3,431 (+0.1%)	+5.2%
	3	販管費 (売上比)	44,335 (52.4%)	43,069 (52.9%)	+1,266 (△ 0.5%)	+2.9%	60,118 (52.3%)	57,239 (52.3%)	+2,879 (+0.0%)	+5.0%
	4	営業利益 (売上比)	5,132 (6.1%)	6,781 (8.3%)	△ 1,649 (△ 2.3%)	△ 24.3%	8,741 (7.6%)	8,189 (7.5%)	+552 (+0.1%)	+6.7%
国内グループ 会社小計 (「オンワード 堀山+HD」を含む)	5	売上高	59,084	52,593	+6,491	+12.3%	85,366	70,567	+14,799	+21.0%
	6	売上総利益 (売上比)	29,599 (50.1%)	26,574 (50.5%)	+3,025 (△ 0.4%)	+11.4%	42,451 (49.7%)	35,076 (49.7%)	+7,375 (+0.0%)	+21.0%
	7	販管費 (売上比)	25,123 (42.5%)	22,343 (42.5%)	+2,780 (+0.0%)	+12.4%	36,782 (43.1%)	30,106 (42.7%)	+6,676 (+0.4%)	+22.2%
	8	営業利益 (売上比)	4,476 (7.6%)	4,231 (8.0%)	+245 (△ 0.5%)	+5.8%	5,669 (6.6%)	4,970 (7.0%)	+699 (△ 0.4%)	+14.1%
海外グループ 会社小計	9	売上高	15,408	14,630	+778	+5.3%	21,966	19,927	+2,039	+10.2%
	10	売上総利益 (売上比)	7,007 (45.5%)	6,514 (44.5%)	+493 (+1.0%)	+7.6%	10,174 (46.3%)	9,158 (46.0%)	+1,016 (+0.3%)	+11.1%
	11	販管費 (売上比)	7,291 (47.3%)	7,185 (49.1%)	+106 (△ 1.8%)	+1.5%	9,853 (44.9%)	9,369 (47.0%)	+484 (△ 2.1%)	+5.2%
	12	営業利益 (売上比)	△ 284 (-)	△ 671 (-)	+387 (△ 2.3%)	↗	321 (1.5%)	△ 211 (-)	+532 (△ 2.1%)	↗



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。
この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は
一切責任を負いませんのでご承知おさください。